



繪本俚諺草 石川豊信畫 上

特別  
合1  
46



国立国会図書館 タイトル『繪本俚諺草』 請求記号 わ-46

ガラス使用



Malpasy

繪本俚諺草序

洛の西川氏の水蒸の敷

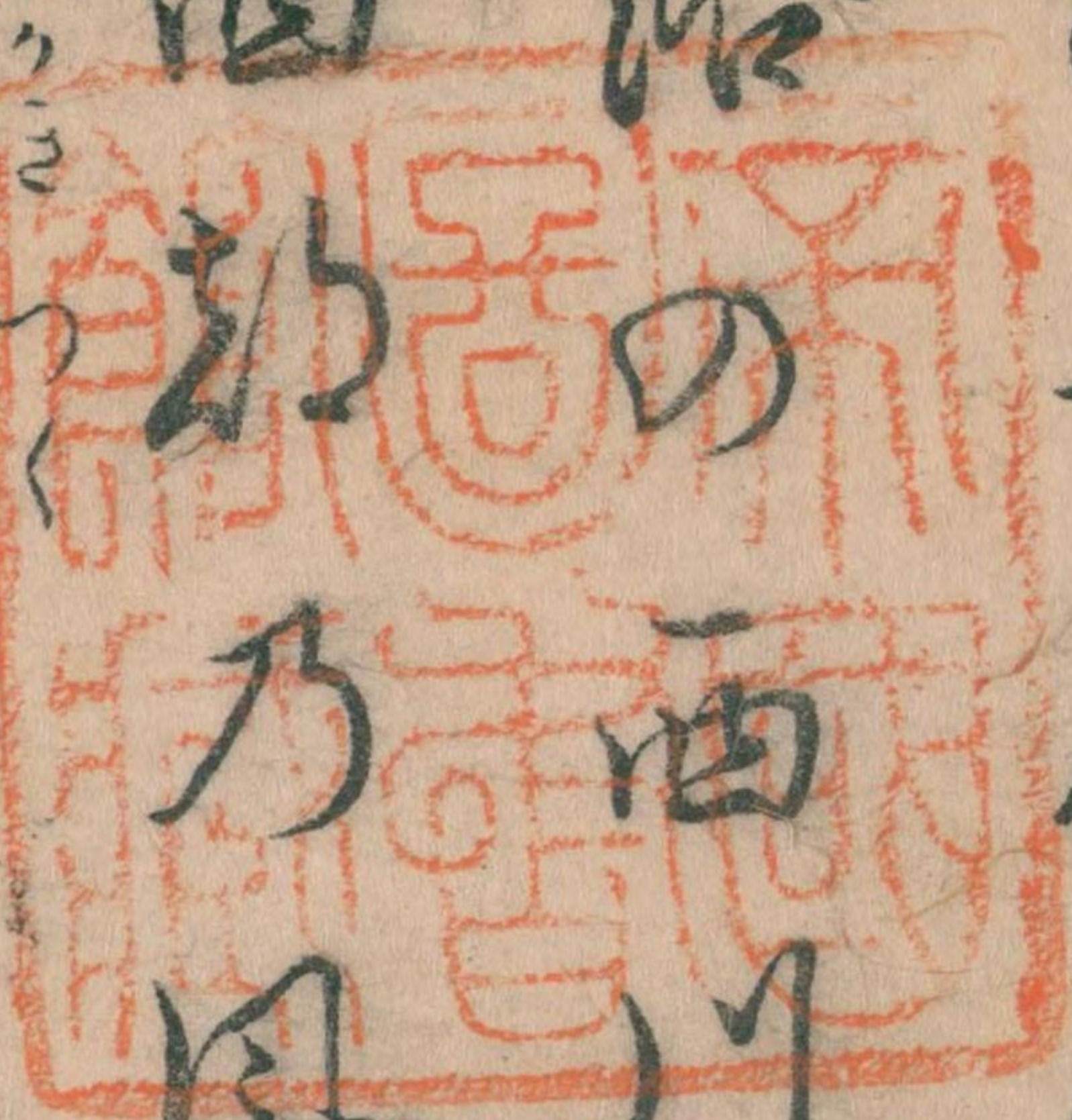
西の乃風俗の閑繁なる法を

畫巻一多世れ奇観となせり

坊間年くけを挿りし

牛に汗を流しいし

此繁榮一多世れ其風流

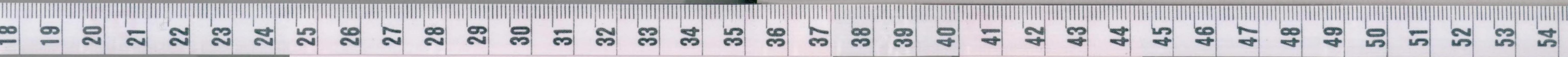






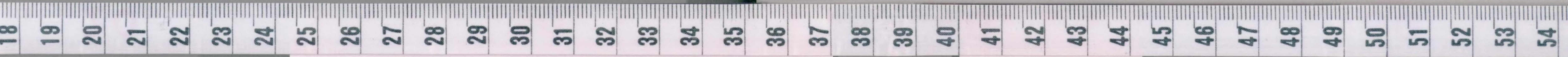
と画よのなるさあは成娘とて書  
エ石川氏の筆を芳一と  
たらん人のさよりともな終  
と耳近きの葉をとりあはうと  
なく書付侍るな終ハ催談州  
と題よふよのなる

申孟春れ日 其醉老人





賢哉乃夢はつまい。四月中に酒の目より元州新の  
和銅年中に始りては社司此夢を執るは是れ清き事なり  
けつていつてすこれのころあつて茶畑に紅あやも養をいさ







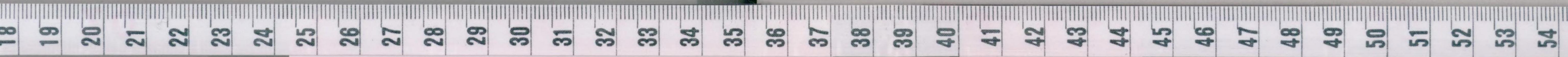
我切小生は武勇さびかた英雅くけそほく人し新  
 けつ子とせむらふ人ゆめうらふとあはれ素問はる人あ  
 御氏乃るよ美殿すれは後とれた。是はとあさくしあさや





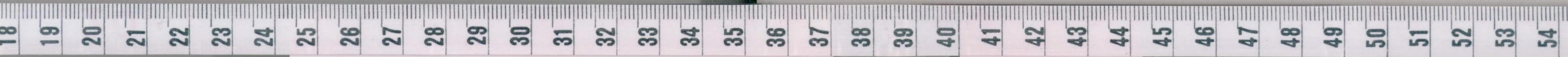


邊り改ふに、憚は事あり、  
改むるは、改むるは、改むるは、  
他家より、其國を、其國を、  
改むるは、改むるは、改むるは、





人々衣食住の三つに。くちくちを。此三つは。人々の  
福人々。さあ乃来い。業權あり。唯をのこくか。家職を大  
りに。は。さる。必こと。好ふ乃か。家職とし。さる。考なり





人の心づらにやぶらぐはらば  
 戸の心づらにやぶらぐはらば  
 老乃申はらばらぐはらば





城怒の二字を人々かへてまぶし。さうする人々の様子を  
が徳を養ふにちうゆを教ふる。程気の振気と世のそだつれど  
甲斐も用れぬあり。城怒の二字へ。今にせんとて。後より





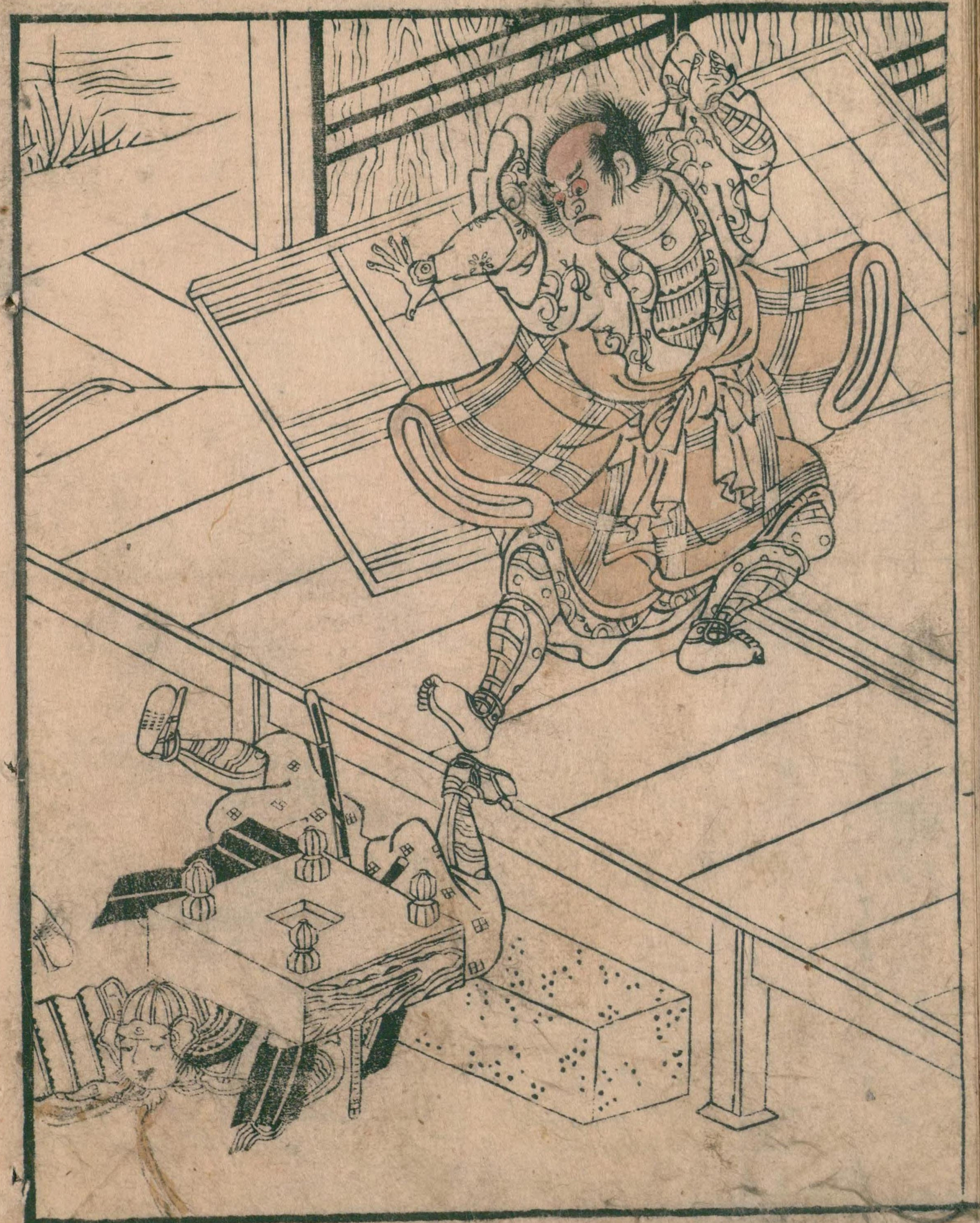
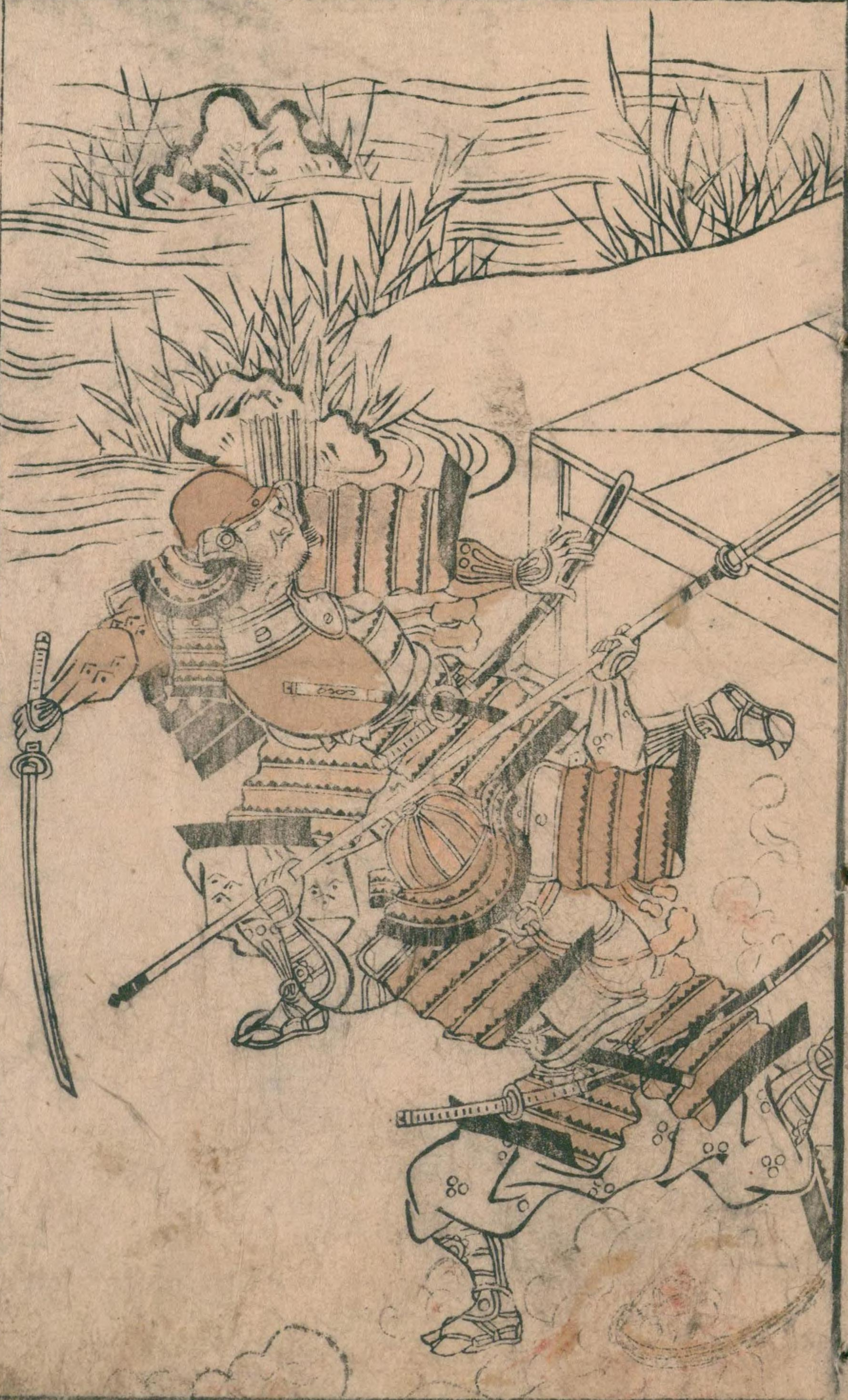








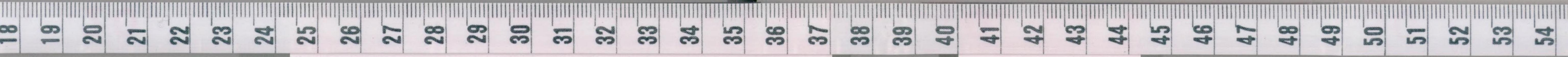
女に心をゆかしがを失ふ者良し武勇力一乃依者若し  
芳洲の切後初中より日あらんをききありてよむ居りて  
けあまのあまのりくありもん世中折る知自害に及ぐりてや





わ  
3  
46

結核むすびはむしむしかまゆりかまゆりとよみかぐらかぐらとよみかぐら  
ゆきゆき今いま結核むすび乃なよよな事こと公こうあつらあつらやまやまいい結核むすび  
結核むすびのよよああささとといいづづ一いち束たば地ぢの能のうを結核むすび身み立たて





繪本俚諺草

中

わ  
3  
46





Maenoshu





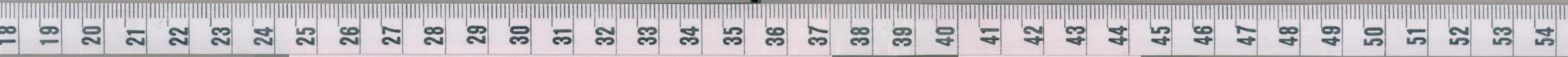








世にうらたれ多き中は金持ゆらぬ人な。いふは  
ゆらぬ。貪りてあつらひに來れし物を徳もあつた  
をさる。是れ虎乃子にゆらぬは多し女らゆらぬ









名人を呼ぶ人。好むを得るもの。執事の地。  
その名は。名人を呼ぶ。小舟道尾。名は。名  
屋。乃。柳。枝。の。花。は。水。に。く。さ。さ。り。と。も。れ。あ。ら。う。





女ハ容貌をよきやうにせしむ。男ハ中とほが罷れあり。女ハ  
 あらうとて。おしとて。中とほが罷れあり。女ハあらうとて。おしとて。中とほが  
 女ハ容貌をよきやうにせしむ。男ハ中とほが罷れあり。女ハあらうとて。おしとて。中とほが





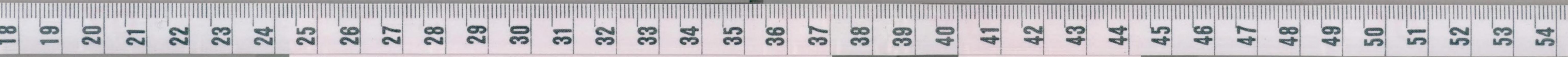








女乃あひいけるれより。仕敷く。他人の中へ。そのれん。  
 そのけう親の君を。知々とのけう。ふ候れ。けう。けう。  
 けう。けう。年長。おや。おや。けう。けう。けう。







うさぎいしほむらゝい。祿きさるんふありのし。新しきいふ  
ちくちくさるんいり。うらくのうらうらにちあるこのま。こ  
あはれさしな乃ほがれをありさぬよし。あもるといひあれ  
し。みとあふかれぞ。まが。新しきをあはれすと。あ





わ  
3  
46





繪本俚諺草

下

わ  
3  
46



国立国会図書館 タイトル『繪本俚諺草』 請求記号 わ-46

ガラス使用





Maenohy

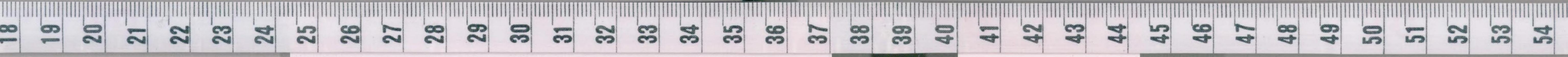


国立国会図書館 タイトル『絵本俚諺草』 請求記号 わ-46

ガラス使用



田舎小唄ありぬ。あはれなる中に、風物もかたじけなく  
 杉並りて、花も所々ありて、中々、美のそと、牛の  
 上、笛吹く、あはれなる、風物も感懐ありあはれ





鮑魚乃其真を知らずとてさうあやう  
 経營のつらさを知る人乃其真を知らずとてさうあやう  
 多しとて知らずとてさうあやう





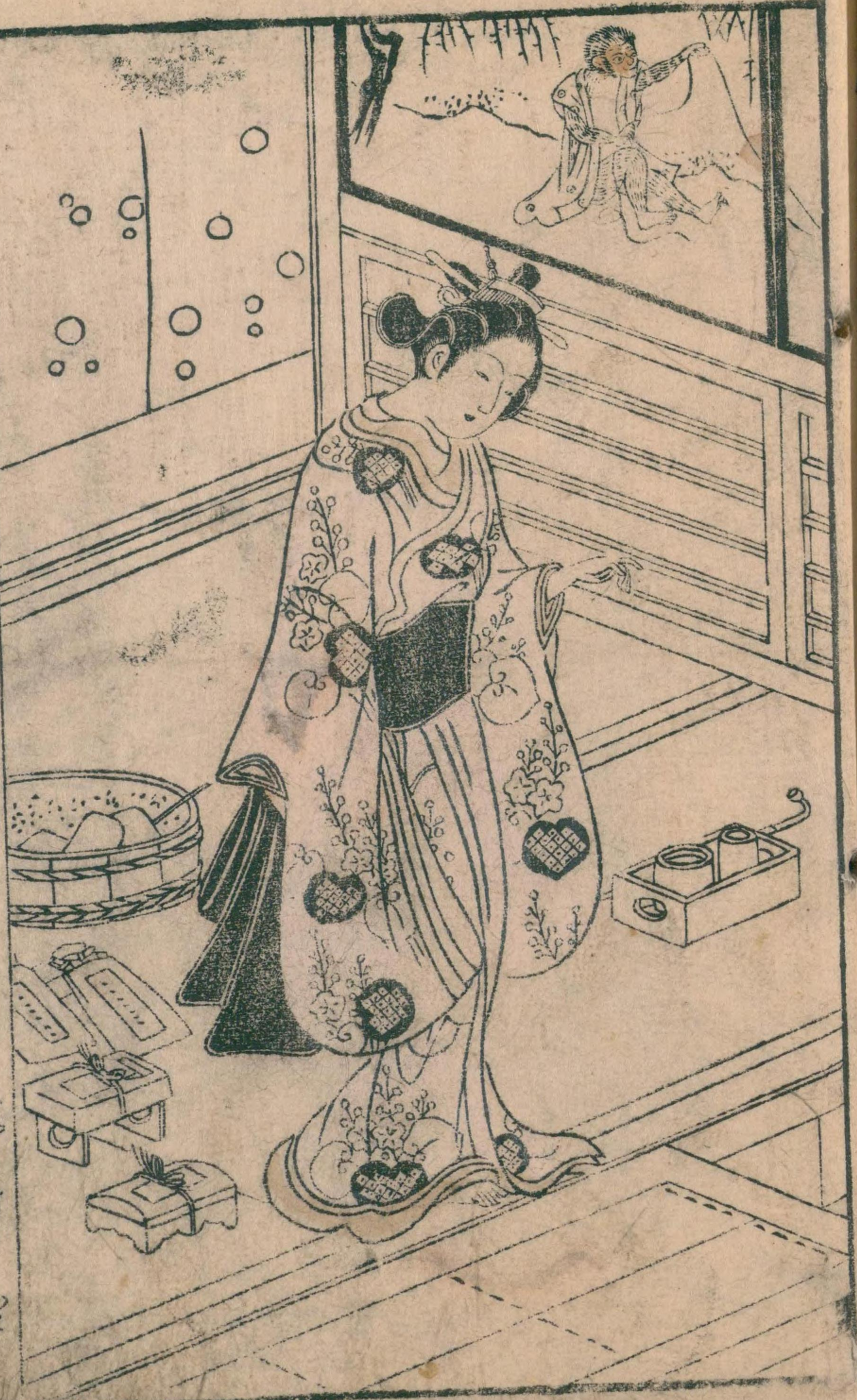








りはく安さの人のなるるを刀の持物を  
 砂掃を見とて其うんまはねのしはれを  
 かくそち海浦よりといれはぬ乃ゆかづまゆか



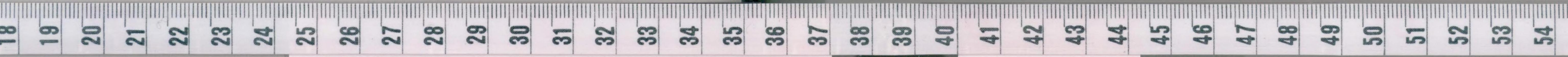


蟻洞の中へ入りては  
 いふもあはれはさし  
 降さぬ事久しけれど  
 其角仙人をけりあり





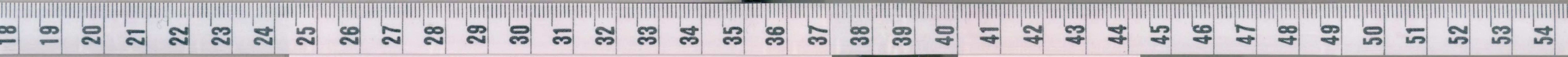
杉をれすりてり 徳友に ちがひ 杉をれすりてり 業をもつて  
 何さあかぬ けりてり 杉をれすりてり 業をもつて  
 ころろ 麻れ中に 遠とせれ 挽き ちがひ 業をもつて







人乃家持を去りて掃除の要なり候時客を中へおは  
 せ給ひ候はば一かたは先づおのり申候はゞ  
 手極く乃家持を去りて掃除の要なり候時客を中へおは  
 せ給ひ候はば一かたは先づおのり申候はゞ







風激して浪をたこま。水に流るゝものまをけしけの  
 方先に起し物おろし猫まき出ころれり。あつ信  
 けし月比匂乞大け。花分人ぬとけし猫獲とつみんさし  
 けし



下

九









わ  
合 1  
46

畫圖

石川豊信



彫刻

佐脇庄兵衛



寶曆二年

大坂心舟橋安堂寺町

申正月吉日

大野木市兵衛



江戸日本橋通壹丁目

須原屋茂兵衛

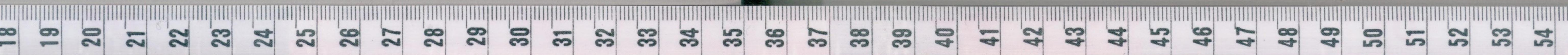
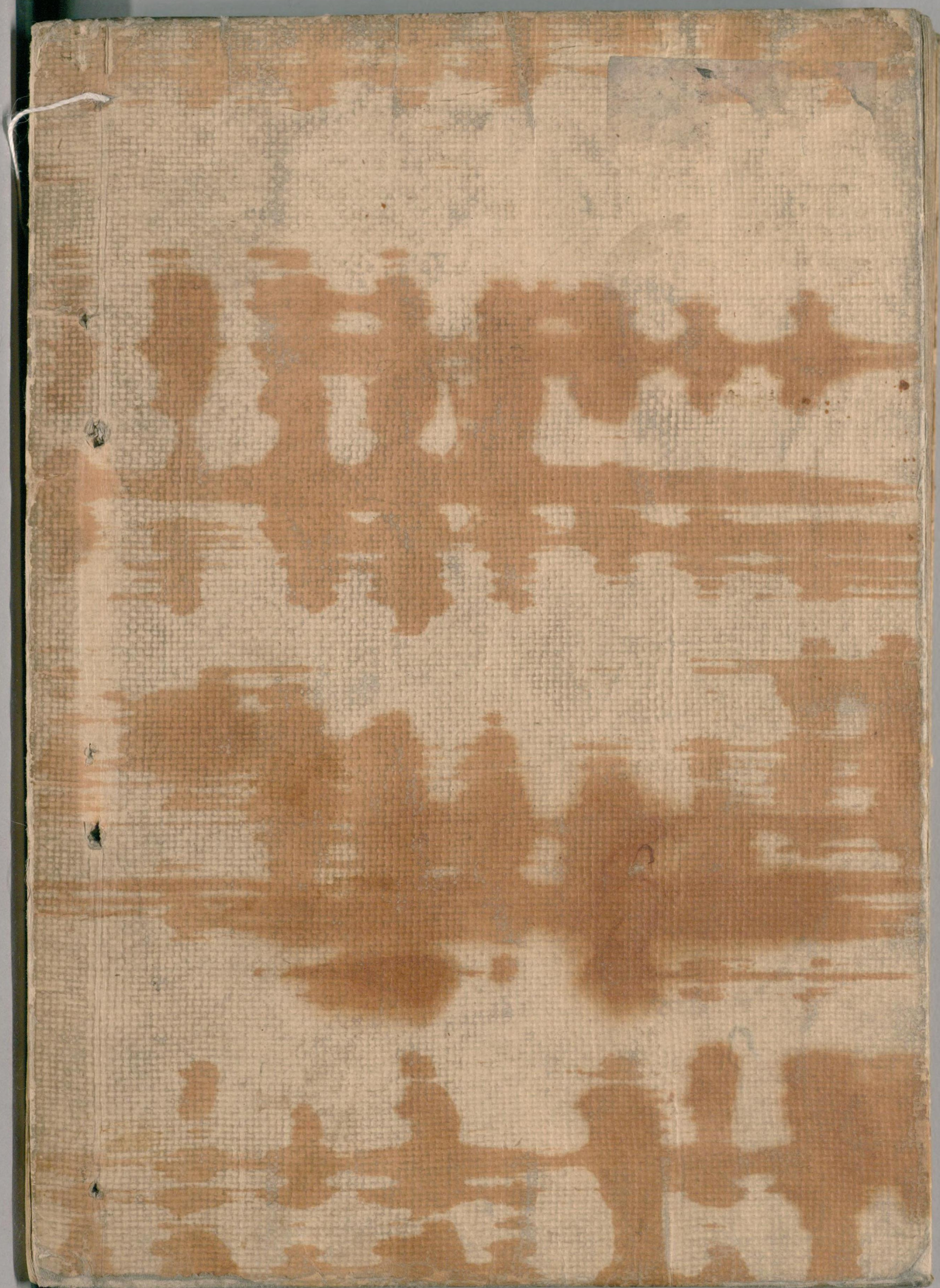


同四日市

須原屋弥治兵衛







国立国会図書館 タイトル『絵本俚諺草』 請求記号 わ-46

ガラス使用